

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 13 日現在

機関番号：32689

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2021～2023

課題番号：21K20024

研究課題名（和文）エミール・ゾラの小説作品における地方・地方都市の表象と登場人物の移動の問題

研究課題名（英文）Representation of the Provinces and Provincial Cities in Emile Zola's Novels and the Question of the Character Movement

研究代表者

野田 農 (NODA, Minori)

早稲田大学・理工学術院・准教授

研究者番号：20907092

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,400,000円

研究成果の概要（和文）：エミール・ゾラの『ルーゴン＝マッカール叢書』並びに『三都市叢書』の第1巻目の作品である『ルルド』を主な分析対象として、これらの作品に描かれた地方及び地方都市の文学的表象を、作者が作品執筆に先駆けて記述した準備ノート等の資料と照らし合わせて再読する一方で、そうした作品内に描かれた空間における登場人物の移動の問題にも焦点を当てて作品分析を行った。

これらの成果は、研究論文「ゾラの『獣人』『ルルド』における鉄道の表象：風景・移動・知覚の観点から」（九州大学フランス語フランス文学研究会『ステラ』第41号）に発表した。加えて、今後、本研究のテーマとも関連する共著論集の刊行を予定している。

研究成果の学術的意義や社会的意義

鉄道をはじめ、科学技術の飛躍的な進展のあった時代に、文学と科学がどのような関係を切り結びながら作品が生み出されていくかという問題に関して、エミール・ゾラの小説作品を分析対象として、文学と歴史の観点から地方や地方都市の文学的表象に着目しアプローチを試みた本研究の学術的意義は、これまで都市、とりわけパリを中心とする文学表象に重点が置かれる傾向のあった19世紀文学研究において、新たな視点をもたらし得る。また本研究の社会的意義として、科学技術が社会の中で応用されはじめた黎明期の時代における人間と科学、及び人間と空間との関係についても示唆を与える研究である。

研究成果の概要（英文）：Focusing on Emile Zola's novels such as the Rougon-Macquart and Lourdes, first volume of Three Cities series, this study examines the literary representations of the provinces and the regional cities depicted in these works and re-read them in light of materials such as the preparatory notes written by the author prior to writing the works. It examines also the issue of the movement of characters within the spaces depicted in these works.

The results of this study were published in a research paper entitled "Representation of the Railway in Zola's The Human Beast and Lourdes: From the Perspective of Landscape, Movement, and Perception" (Stella, Kyushu University Society for French Language and Literature, Vol. 41). In addition, a co-authored collection of essays related to the similar theme of this research is scheduled to be published in the future.

研究分野：ヨーロッパ文学

キーワード：エミール・ゾラ フランス自然主義文学 リアリズム 地方都市 移動 交通 地方

## 様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

当研究の背景には、まず研究対象である19世紀フランスの文学作品において、都市と地方の対立、また都市と地方の移動を描くことの重要性が増大することが根底にある。これは歴史的な観点から見れば、世紀半ばの科学技術と産業の飛躍的な発展に伴い、鉄道をはじめとする多くの新たな交通手段が登場した事と無関係ではなく、とりわけ同時代のリアリズムの小説作品には頻りに描かれることである。本研究は、こうした歴史、社会、科学技術を文学作品がいかに表象したかを明らかにすることを目的とし、フランス19世紀後半の自然主義における代表的作家エミール・ゾラの『ルーゴン=マッカール叢書』と『三都市叢書』を対象として分析する。

また、この問題に関わる先行研究では、パリや都市というテーマに限定されたものであり、また方法論の上でも、個別の方法論に限定されたものである。他方、ゾラの小説作品に描かれた世界はパリや都市だけではなく、地方や地方都市も含むものであり、それはこれまでのゾラ研究においては見落とされてきたものである。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、エミール・ゾラの『ルーゴン=マッカール叢書』と『三都市叢書』を対象として、文学作品に描かれた空間の表象と、登場人物の空間の移動を描いた記述について考察することである。ゾラの小説作品において、主要登場人物はパリの街中を、その他の地方都市の中を、あるいはそれらの間を移動する。これは産業が飛躍的に発達した第二帝政当時の社会的現実を映すためだけではなく、物語の展開上の必要性から導入される事象であり、歴史社会学的かつ物語論・文体論的な観点からも分析が可能なテーマである。

本研究の特色・独創的な点は、ゾラおよびフランス自然主義の作家を分析対象とし、文学地理学批評、民族学的文学批評等の新しい批評理論を援用しつつ、これまでそれほど研究されていない小説作品における空間の表象、とりわけ都市と地方の対立ないし交流に軸を据えながら、文学・地理学・歴史学・民族学といった異なる学問領域の知見を相互に活用する点である。

### 3. 研究の方法

具体的な研究内容は以下の2つに大別される。すなわち、研究初年度の1.『ルーゴンマッカール叢書』における地方都市の表象と空間の移動の問題、そして2年目の2.『三都市叢書』における地方都市の表象と空間の移動の問題であり、このうち1は更に以下の3つに分類される。まず1-1として、初年度の前半期に、1851年に南仏ヴァール県で実際に起こった民衆蜂起を題材とする『ルーゴン家の運命』と『ブラッサンの征服』の2作品を扱いながら、南仏エクスをモデルとする架空の街ブラッサンを取り上げ、『ルーゴン家の運命』の第1章と第5章で、その街の周囲での共和派の蜂起民たちの行軍の過程が詳細に語られることに着目し、これらの章において、主人公もその参加者のひとりである蜂起民たちの移動の記述を分析する。次に1-2として、初年度後半期には地方の炭鉱町や農村を中心的な舞台とする作品を取り上げる。『ジェルミナル』に関して、作者ゾラはその完成稿のテキストに先立ち、この小説の舞台であるモンヌー炭鉱のモデルとなったアンザン炭鉱に実際に赴き取材している。その記録をまとめた *Mes notes sur Anzin* を参照しつつ、この小説に描かれた炭鉱町と炭鉱の内部に関して地理学的な観点からテキストを分析する。またボース平野の農民の生活を描き、登場人物たちの土地の相続を主題にした『大地』に関しては、ゾラは実際にその土地に赴き、この小説の舞台となっているローニュ村のモデルとして、現実の地口ミー=スル=エーグルに関して詳細な手書きの地図を書き残している。また1-3として、初年度後半から次年度前半において、『生きる歓び』に関して、物語の舞台であるノルマンディーの小さな漁村ボンヌヴィルを対象に、主人公ポーリーヌの視点に着目し、それを通じて描き出される風景描写を分析する。最後に2年目の研究として『三都市叢書』における空間の表象と空間の移動の問題を扱う。特に第一作『ルルド』はフランスの地方都市を描いたものであり、第一部では、主人公のフロマン神父が巡礼地へと向かう列車の旅の様子が描かれる。これを分析対象とし、19世紀末の交通手段の変遷を踏まえ、登場人物の移動の問題について考えたい。

これら小説テキストと視覚的な準備段階の史料との相関関係についてフランス国立図書館を中心にフランスでの文献調査および資料収集を行い、小説の中に描き出されたそれらの空間の中での登場人物の移動がいかに物語の進展と空間の表象に寄与しているか検討する。

### 4. 研究成果

まず2021年度の研究成果として、『ルーゴン=マッカール叢書』の第1巻『ルーゴン家の運命』(La Fortune des Rougon)の第1章と第5章に描かれた共和派の蜂起民たちの行軍の過程を分析した。分析に際しては、2015年刊行のClassiques Garnier版のLa Fortune des Rougonを用

い、あわせて同出版社から刊行された *Relire La Fortune des Rougon* という、フランス本国のゾラの専門家によるこの作品に関する評論集を参照し、自らの分析に関する妥当性を検証した。また2年度目の考察の中心となる『三都市叢書』の第1巻目の作品である『ルルド』に関しては、その準備作業として初年度は、この作品の日本語翻訳の作業を進めながら、この小説の第1部に描かれた主人公たちがパリから物語の中心的な舞台となる巡礼地ルルドへと向かう鉄道の旅の場面を分析しつつ、同じく鉄道を通じたパリと地方都市との間の移動を描く作品であり、『ルーゴン=マッカール叢書』の1巻をなす作品でもある『獣人』に描かれた鉄道の移動及び列車内の場面の描写との比較を行った。最後にフランス本国のゾラ研究チーム主催のオンラインセミナーへの参加し、『ルルド』をはじめゾラやゾラの小説作品に関する専門家の研究発表を随時聴講し、作品に関する見識を深めた。

次に2022年度の研究成果として、前年度に引き続き、『三都市叢書』の第1巻目の作品である『ルルド』に関して、この小説の第1部及び第5部に描かれた主人公たちがパリと物語の中心的な舞台となる巡礼地ルルドとの往復の旅を描く場面に関して、風景や移動の観点から分析を試み、同じく鉄道を通じたパリと地方都市との間の移動を描く作品であり、『ルーゴン=マッカール叢書』の1巻をなす作品でもある『獣人』に描かれた鉄道の移動及び列車内の場面の描写との比較を行った。その成果を、研究論文「ゾラの『獣人』『ルルド』における鉄道の表象-風景・移動・知覚の観点から-」として、九州大学フランス語フランス文学研究会の雑誌「ステラ」第41号に発表した。また『ルーゴン=マッカール叢書』の地方及び地方都市を舞台とする作品に関しては、初年度で扱った第1巻『ルーゴン家の運命』(*La Fortune des Rougon*)に加えて、この作品の続編とも言える第4巻『プlassansの征服』(*La Conquete de Plassans*)、第12巻『生きる喜び』(*La Joie de vivre*)、第13巻『ジェルミナル』(*Germinal*)、第15巻『大地』(*La Terre*)に関して、これらの作品の中で本研究テーマに関わる記述箇所を中心に分析を引き続き進めた。最後にフランス本国のゾラ研究チーム主催のセミナーへオンラインで参加し、パリ近郊メダンの別荘の歴史や、ゾラの最晩年の作品に関する専門家の研究発表を随時聴講し、作家の生涯や作品のみならずフランスにおける近年の研究状況に関する見識を深めた。

最後に最終年度2023年度の研究成果として、2022年度まではコロナ禍のために困難であったフランス国立図書館やパリ郊外のメダンにあるエミール・ゾラの記念館での資料調査を行い、フランス滞在中にはエミール・ゾラに関する研究会に参加した。また前年度に引き続き、『三都市叢書』の第1巻目の作品である『ルルド』に関して、この作品の2015年にClassiques Garnierより刊行された最新の批評校訂版を読み込みながら、作品の中心的な舞台となるフランスの地方都市ルルドの描かれ方と、ゾラが作品執筆に先駆けて現地取材を行った際に書き残した一種の旅行記録である *Mon voyage a Lourdes* の中で記述された現実の街との比較分析を行った。これに関しては、このテーマに関わる共著論集の刊行を予定しており、それにむけ編著者として目下編集及び執筆作業を進めている。さらに『ルーゴン=マッカール叢書』の地方及び地方都市を舞台とする作品に関しては、前年度より継続して、第12巻『生きる喜び』(*La Joie de vivre*)、第13巻『ジェルミナル』(*Germinal*)、第15巻『大地』(*La Terre*)に関して、これらの作品の中で本研究テーマに関わる記述箇所を中心に分析を引き続き進めており、それらの成果に関して所属学会や大学の紀要等での発表を予定している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 野田 農	4. 巻 41
2. 論文標題 ゾラの『獣人』『ルルド』における鉄道の表象：風景・移動・知覚の観点から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Stella	6. 最初と最後の頁 275～287
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15017/6632439	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------